

# 西諸県地域の普及活動

令和6年3月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 3月期子牛郡品評会が開催

13日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年3月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には37頭が出品され、審査の結果、優等賞に6頭、尙等賞に17、弍等賞に14頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市のT氏出品の「はる」号（福晴茂一愛日向一忠富士）、2席は小林市のS氏出品の「きうい」号（福晴茂一美穂国一安平）、3席はえびの市のO氏出品の「ふくみ」号（福晴茂一耕富士一美穂国）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、雌牛らしい品位に富んでいたとの講評でした。

### 2) 西諸県農業改良普及事業推進協議会幹事会及び西諸県地区農業経営指導士会普及事業実績検討会を開催

20日に普及事業推進協議会幹事と農業経営指導士合同の令和5年度普及事業実績及び令和6年度計画案の検討会を開催しました。

この検討会では、普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題と専門プロジェクト5課題の今年度の活動実績について説明を行いました。参加者からは、新規就農者等の農地の取得、小麦の品種検討、トビイロウンカ等についての質問や助言を頂きました。

今後は検討やご意見いただいた内容を参考に令和6年度の普及指導活動計画に反映して行く予定です。



【実績や計画への質問等をする出席者】

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

#### (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

### 1) 農業次世代人材投資事業活用者の就農状況等の確認

15日及び19日に、小林市で農業次世代人材投資事業の経営開始型を受給している施設きゅうりと、ぶどう及び水稻等の新規就農者の2名について、就農状況等の確認を行いました。病害虫の発生や台風の影響で収量が多少落ちていましたが、関係機関に相談しながら対策をとるようしており、今後の経営改善に向けた高い意識が見られました。

## 2) 就農相談会を実施

5日、13日及び15日に、小林市で就農を希望する3名の相談に対応しました。1人目は、きしまアグリトレーニングセンターの研修生で、就農計画の検討や活用する補助事業について助言しました。2人目は、父親の肉用牛繁殖経営を継承して就農を予定しており、認定新規就農者の認定を取得し、国の補助事業を活用する意向のため、今後必要となってくる資料の説明等を行いました。3人目は、露地野菜で就農を希望している方で、認定新規就農者の認定を希望しているため、認定新規就農者制度の説明や国の補助事業の説明等を行いました。

7日に、えびの市にていちごの研修希望の方の相談に対応しました。この方は、祖父がいちご農家で、経営を継承するため、県外から移住してこられております。相談時には研修内容等の説明を行いました。令和6年4月からえびの市いちご団地で研修を予定しています。

13日に、高原町にて、地域おこし協力隊としてマンゴー農家に研修に行っている方の相談に対応しました。この方は、令和7年7月から研修先の農家から一部のハウスを継承して就農する予定で、今後の継承の進め方などについて助言等を行いました。

今後も、就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：施設きゅうり1名、肉用牛繁殖1名、露地野菜1名 えびの市：いちご1名  
高原町：マンゴー1名)

## (未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

### 1) 水田担い手ネットワーク交流会

28日に、普及センターにおいて、水田営農経営体19名、関係機関11名が出席し、水田ネットワーク交流会を開催しました。

交流会では、令和5年度に取り組んだ省力化栽培技術及び飼料用米新品種の展示ほ結果について、普及センターから説明しました。

また、意見交換会では、農地集約・集積のために何ができるか、水田・畑で取り組んでいる2事例を普及センターから説明しました。その後、それぞれの班に分かれ、活発な意見交換が行われた後、班で出た意見をまとめ、発表し合いました。意見では、水路・農道の整備に係る基盤整備の問題や地域毎の栽培上の困りごと（畦畔管理、ジャンボタニシや獣害）等が多く出されました。

今後もこのようなネットワーク活動を継続し、技術の情報共有や課題の意見交換を行う予定です。



【水田地図の説明の様子】

### 2) 令和6年小麦の現地検討会

25日に、普及センター及び小林市現地にて、小麦の産地拡大に向けた会議及び小麦「せときらら」の現地検討会を行いました。

検討会は、小林市やJAこばやし、県農産園芸課、総合農試、農林振興局、普及センターが出席し、小麦の高品質化(タンパク質向上)や今後の生産拡大に向けた協議を行いました。現地検討会では、穂揃期になった「せときらら」の生育状況や今後必要な管理について、協議しました。

今後は、赤カビ防除と実肥の実施について指導する予定です。



【小麦現地検討会の様子】

## (にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

### 1) さといも採種栽培の継続に向けた取り組み

19日に、さといも採種体制の効率化に向けたコンサルティング結果の報告会が行われました。収穫・調整作業の分業化や、種芋受発注のDX化、さといも日本一産地復権に向けた検討について報告が行われています。

令和6年度は、栽培面積が増え、県内への種芋供給量が増えることが期待されます。

### 2) 西諸県地域の露地野菜の振興に向けた意見交換会

12日に、普及センターにおいて、西諸県地域の露地野菜の振興に向けた意見交換会を開催しました。西諸県地区の7農業法人と関係機関併せて34名が参集し、ベジエイト株式会社重富社長による講演を行ったあと、露地野菜の振興を目的とした意見交換会を行いました。

令和6年度も引き続き、西諸県地域の露地野菜の振興を目的とした意見交換会を開催します。



【講師と意見交換をする参加者】

## (スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

### 1) いちご産地視察

25日、JAこばやし、JAえびの市及び普及センターの職員で、JA尾鈴管内のいちごほ場を視察しました。現在、西諸県管内では、「さがほのか」に変わる品種の検討をしており、JA尾鈴管内で栽培されている「ゆめのか」や「みくのか」、「やよいひめ」の栽培状況を確認しました。また、施肥量や管理の特徴、消費者ニーズ等を聞き取ることができました。

引き続き他産地の情報収集も行いながら、品種の検討を行っていきます。



【視察先いちごほ場の様子】

### 2) きゅうり生育調査

毎週木曜日、JAこばやし管内のきゅうり生産ほ場3戸において、JAこばやし指導員と生育調査を実施しています。茎径や開花位置などを調査し、生育状況を把握するとともに、環境測定機によって得た環境データを分析し、分析結果を生育状況と照らし合わせながら、栽培管理の改善を行っています。

今後、日中の気温が上がりや日長時間が延びる中で、しっかりと収量をとっていただけるよう、関係機関と連携して支援を行っていきます。



【生育調査の様子】

## (魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

### 1) 小林市果樹農業振興推進対策協議会 役員会

7日に、普及センターで標記役員会が開催され、生産者と関係機関合わせて約20名が参加しました。会議では、総会の内容について検討し、普及センターからは、総会時に園地台帳整理のための聞き取り協力依頼をさせていただくこととなりました。今後も引き続き関係機関で協力し、高品質な梨ぶどう生産と産地維持への支援を行います。

### 2) モデル農家 検討会 (マンゴー)

22日に、小林市内にてモデル農家の検討会を行いました。対象のマンゴー生産者は、過去にマンゴーの着果不良等により経営が不安定な時期がありましたが、現在は確実な栽培管理と炭酸ガス施用等により高収量・高品質を実現しており、経営が改善されています。

今後も、さらなる高品質化を目指し、自動開閉装置などへの投資意欲があるため、経営の見える化や栽培管理のアドバイス等の支援を行います。



【モデル農家 (マンゴー)】

### 3) ぐれ〜ぷ NOSAIとの勉強会及び総会

14日に、小林市内にて、ぐれ〜ぷの勉強会及び総会を開催しました。勉強会ではNOSAIから収入保険や園芸施設共済事業等について説明があり、理解が深まった様子でした。総会では全ての議事が承認され、令和6年度は7月ごろに県外視察を行うこととなりました。また、普及センターからはぐれ〜ぷマップの更新報告と園地台帳ヒアリングの協力依頼を行いました。

引き続き関係機関で協力し、高品質な梨ぶどう生産と産地維持への支援を行います。



【ぐれ〜ぷ勉強会及び総会】

### 4) 小林市果樹農業振興推進対策協議会 総会

29日、小林市内にて標記総会が開催され、生産者と関係機関合わせて約30名が参加しました。全議案が可決され、普及センターからは品評会特別賞の表彰と、管内での梨ぶどうの試験結果の共有、園地台帳ヒアリングへの協力依頼等を行いました。

今後も引き続き関係機関で協力し、高品質な梨ぶどう生産への支援を行います。



【会長あいさつ】



【品評会特別賞の表彰】

## 5) JAこばやしマンゴー部会運営委員会

28日に、JAこばやし三ヶ野山出張所にて標記役員会が開催され、生産者と関係機関合わせて約20名が参加しました。出荷資材のJA名称の標記の仕方や今後の行事について検討しました。また、普及センターからは園地台帳のヒアリング結果を共有し、令和6年度にはJAこばやしマンゴー部会の産地ビジョンを見直すことになりました。

今後も引き続き関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産と産地維持への支援を行います。



【マンゴー部会運営委員会】

## (西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

### 1) 専門技術センターとの連携支援

12日に、専門技術センターの花き担当専技及び農産園芸課とあわせて3名で、管内のランタンキュラスやキイチゴ、リンドウについて巡回支援を行いました。

いずれの品目も課題はあり、県全体で検討すべき内容について共有しました。

また、農家からは、今後の管理を中心に質問等があり、専技から、特に注意して実施する点などの助言がありました。



【ランタンキュラスほ場の巡回支援】

### 2) 高原町花卉部会定例会

28日に、定例会が開催され、高原町花卉部会員6名と関係機関4名が出席しました。

JA販売課から情勢報告として、現在のキクの販売状況が説明され、普及センターからは、アザミウマ類に対する粒剤の効果について説明を行いました。

今後、引き続き、粒剤の活用を検討していくことになりました。

## 2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

### 1) 経営分析研修を開催

5日、12日及び19日の計3回にかけて、普及センターが作成した経営分析シートを使った経営分析研修を行いました。対象者は青色申告を行っている農業者で、今年度は3名の参加があり、収益性や損益分岐点を使った分析等、様々な視点から自身の経営を振り返ることで、課題の整理や改善方法を考えました。研修の最後は、将来の経営目標や改善プランを考えて声に出して発表しました。

来年度は、更にステップアップした内容で研修を行います。



【第1回研修 入力方法の説明の様子】

## 2) 稲作経営改善に向けた事前面談

7日に、えびの市にて大規模に水稻を作付している経営体1戸を対象に、経営改善計画作成に向けた事前面談を行いました。

作物専技と一緒に現在の作付体系や経営状況を聞き取り、現状の把握及び整理が出来ました。

今後は、経営目標の設定や経営シミュレーション分析を行い、技術的な課題について検討を行う予定です。



【経営体との面談の様子】

## 3) 耕畜連携研修会

22日に、都城市にて開催された耕畜連携研修会に、養豚農家や飼料用米生産農家、関係機関で参加しました。

午前には、耕畜連携の取組について、北諸県地域と西諸県地域で互いに取組紹介をした後に意見交換会を行い、午後からは飼料用米保管用倉庫の視察を行いました。生産者同士の活発な意見交換が行われ、充実した研修会となりました。

北諸県地域の事例も参考にしながら、西諸県地域における耕畜連携モデルの構築に向けて、今後も生産者と関係機関が一体となり、取り組んで参ります。



【飼料用米保管用倉庫の視察】

## 4) 「西諸地区畑作営農改善推進協議会」幹事会を開催

26日に、普及センターにおいて、「西諸地区畑作営農改善推進協議会」幹事会を関係機関出席のもと開催しました。

会では、令和6年度総会議案（令和5年度事業実績と収支決算並びに令和6年度の事業計画と収支予算等）に関する協議を行いました。

なお、総会は令和6年4月の開催を計画しています。



【幹事会の様子】

## 5) Dプロ地域ワーキンググループとの意見交換

県では、ハウス内の環境データを活用して生産力向上を図ることを目的とした取組（Dプロ）を行っています。各地域では、この取組を推進するために、地域ワーキンググループが設置されています。

8日に、普及センターにおいて、その地域ワーキンググループと、県農産園芸課との意見交換が行われました。参加したJA及び普及センターからは、西諸県管内でのデータの分析方法や生産者への指導方法などを情報提供しました。

引き続き、関係機関、生産者とともに、データの効果的な活用に向けた取組を進めていきます。



【意見交換の様子】

## 6) 営振協野菜部会先進地視察

1日に、新富町のAGRISTにおいて、ピーマン自動収穫ロボットを視察しました。実証ほ場において、1分間に1個収穫するロボットの様子を実際に確認しました。

課題はまだ多いものの、産地への波及も現実味を帯びてきている印象を受けました。

来年度も県内で実証を行うとのことなので、引き続き情報収集をしていきます。



【ロボット視察の様子】

## 7) 営振協展示ほ調査

27日に、小林市野尻町の夏秋ピーマンほ場において、ピーマン定植時の生育調査を実施しました。このほ場は、夏秋ピーマンの線虫抵抗性台木の有用性について確認するための展示ほで、前作に引き続き、今作も調査等を行います。

今作の調査結果を管内生産者にも共有しながら、線虫被害ほ場への台木導入など、技術の横展開を図っていきます。



【定植時の生育調査の様子】

## 8) 営振協野菜部会技術員会

14日、標記会が普及センターで開催され、役場、JA、NOS AI、振興局、普及センターの職員が出席しました。

会では、品目毎の生育概要や令和5年度の展示ほの取組、令和6年度の展示ほの計画など情報提供が行われました。

引き続き西諸県管内の農業振興に向け、関係機関との連携を図っていきます。



【技術員会の様子】

## 9) 西諸県地区果樹技術員会第7回定例会

27日に標記会議を普及センターにて開催し、関係機関約10名が参加しました。営振協展示ほ実績・計画や登録失効農薬、マンゴーの園地台帳ヒアリング結果の共有等を行いました。また、令和6年後は果樹産地構造改革計画書の見直しを行う予定としました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【定例会の様子】



【果樹・花き技術員合同意見交換会】

## 10) ラナンキュラス実需者意向調査

2月29日～3月1日に、西白杵農業改良普及センターと大阪事務所、JA宮崎経済連大阪事務所とともに、愛知県と大阪府の花き市場でラナンキュラスに関する調査を実施しました。

今回は、モロッコ系統を中心に県産品点検と市場との意見交換を実施し、モロッコ系統の位置づけなどを調査できました。

今回の調査内容については、管内の生産者及び関係機関に対し、今後のラナンキュラス栽培品種の選定における参考として共有を図っていきます。



【市場担当者との意見交換】

## 11) 西諸県管内若手花き生産者勉強会

14日に、管内の若手花き生産者2名と経営に関する勉強会を開催しました。

今年度は2回の勉強会を実施しており、その内容を踏まえながら鉢苗物生産者が自身で経営分析した内容について説明していただき、意見交換いたしました。

経費が高騰し、販売額があがらない状況をいかに市場や実需者、消費者に分かってもらうか、という花き全体の問題について考えさせられる勉強会になりました。



【若手花き生産者との情報交換】

## 12) 西諸県地区花き技術員会第8回定例会

27日に、令和5年度最後の技術員会を開催し、関係機関7名が参加しました。

県産品点検の結果や2024年問題などを情報共有しました。



【西諸県地区花き技術員会定例会】